

第 37 回土木計画学研究発表会(春大会) : 2008.6.6~7(北海道大学)
 企画論文部門, 若手研究者論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名 : LRT を活かしたまちづくり(2)	
日付 : 6 月 7 日 (土) 曜日, セッション時間 : 14:45 ~ 16:15	
オーガナイザー・司会者名(所属) : 小谷通泰 (神戸大学), 松中亮治 (京都大学)	
討 議 内 容	<p>セッション全体 :</p> <p>①国内外 2 都市での、LRT 導入前後における住民の公共交通機関選択意識の変化、②リアルオプション・アプローチによる便益評価手法を用いた、LRT 化プロジェクトの段階整備の評価、③都心での商業・公共施設の充実や LRT 整備などの施策が中心市街地の活性化に及ぼす効果、④バックキャストの視点から CO₂60%削減を目標とした場合の、土地利用の誘導、規制、LRT 沿線での TOD などの施策の在り方、についてそれぞれ発表が行われた。</p> <p>またセッション全体を通じての議論では、わが国で LRT を導入するためにはまだまだ大きな壁がありそれに向けて真摯に取り組む必要があること、LRT の導入は手段であり、その目的として中心市街地の活性化をはじめとするまちづくり、歩行者を重視した空間整備の視点が重要であることが指摘された。また、需要予測、整備効果の評価など、LRT 整備のためには従来と異なる計画の方法論が必要なことが述べられた。</p>
	<p>(347) 松中 亮治 (京都大学) :</p> <p>LRT の整備前後で、公共交通に対する意識は変化したことが確認されているが、環境意識には変化は見られなかったのか、ミュールーズと富山ではモデルから得られた時間価値が大きく異なるのは何故か、同じ LRT でも富山のような既存路線の改良とミュールーズのような新規の開設とでは市民意識に差異があるのではないか、などの点について討議が行われた。</p>
	<p>(348) 平野 俊彦 (熊本大学) :</p> <p>第一段階目での整備で、第二段階目の整備が円滑に進められるような何らかの工夫を行うことを考慮しているのか、需要予測の伸びは何が原因 (運行頻度の増大など) であるのか、上熊本への接続、パークアンドライドは行われる予定があるのか、不確実性をどのように想定しているのか、などの点について討議が行われた。</p>
	<p>(349) 波床 正敏 (大阪産業大学) :</p> <p>総滞在時間を大きくすることが目的ならば一人 1 回あたりの滞在時間を長くするだけでなく、1 回の滞在時間が短くても頻度を多くすることも考えられるのではないか、買い物の目的地として大阪市内 (なんば地区)、堺市内以外には想定しなかったのか、買い物と一口に行っても多様な形態 (日常的、非日常的) がありそれらを区分して考えるべきではないか、などの点について討議が行われた。</p>
	<p>(350) 丸山 健太 (復建技術コンサルタント) :</p> <p>需要推計時に将来の OD パターンは変更させているのか、2050 年時点での道路網はどのように想定しているのか、削減目標を達成するために現在取るべき手段についてそれぞれの実効性を検討する必要があるのでは、基礎データとしてパーソントリップ調査データが利用可能な状況にあるのか、などの点について討議が行われた。</p>